

令和5年度 玉野市工業振興会議 概要

日 時 令和6年2月2日（金）13：30～15：30
場 所 産業振興ビル 3階 展示・会議室
出席者 別紙名簿のとおり
概 要 以下のとおり（進行 津田課長）

1. 開会
2. 大倉部長挨拶
3. 会長選任

1.

津田課長

定刻が参りましたので、ただいまから「令和5年度第2回玉野市工業振興会議」を開催させていただきます。皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。私は本日の進行役を務めさせていただきます 玉野市商工観光課の津田でございます。よろしくお願ひ致します。

それでは、開会に当たりまして、玉野市産業振興部長の大倉よりご挨拶を申し上げます。

2.

大倉部長

玉野市産業振興部長の大倉でございます。

本日は大変お忙しい中、『令和5年度 第2回 玉野市工業振興会議』にご出席いただき誠にありがとうございます。また、市内の各工業関係団体、岡山県産業振興財団、岡山県工業技術センターからもご臨席いただき、日頃のご指導ともども厚く御礼申し上げます。

さて、新年を迎え1か月が経ちましたが、元日から能登半島において大きな災害が起きたということで実は私、珠洲市で奥能登芸術祭をしており数年前に訪れたことがございまして、元日からの報道を見て大変なショックを受けました。改めまして被害に遭われた方のご冥福をお祈りいたしますとともに被災に遭われた方々のお見舞い申し上げますとともに一日も早い復興を願っております。

本日は工業振興に係る基本方針の改定に加え、事務局3団体の来年度の事業について説明をさせて頂くこととなっております。困難な課題は多くございますが、新たな基本方針の策定により、次世代に向けた新たなステップを踏み出し、本市産業の持続的な発展を実現するためには、皆様方のご協力が不可欠でございます。関係機関それぞれが取り組む様々な事業に対しまして、皆様からの貴重なご意見を頂戴できればと存じます。

終わりになりますが、岡山大学の船倉様をはじめ、委員の皆様には、本市の工業振興施策について、活発な意見交換をお願いするとともに、この会議が実り多いものとなりますようご期待申し上げまして、甚だ簡単ではございますが開会のご挨拶にかえさせていただきます。本日はよろしく申し上げます。

3.

津田課長

ありがとうございました。それでは名簿の方に任期が書いてございますが、この1月末で委員の皆様の任期が切れておりますので、今後とも引き続きお願いをさせていただいておるところでございます。そのため新しい任期が参りましたので改めてですね、会長の選出をさせていただければと思っております。

玉野市工業振興条例 第3条 第5項 により、会長は委員が互選することとなっておりますが、いかがでしょうか。ご意見などございますでしょうか。

大倉部長

岡山大学 産学連携課 の 船倉 様に お願いしたいと存じますが、いかがでしょうか。

津田課長

ありがとうございます。それでは前任期に引き続き岡山大学 産学連携課の船倉様をお願いしたいと存じます。

4. 議事

津田課長

続きまして、議事に移りたいと存じます。まず、お手元の会議資料のご確認をお願い致します。

- ・令和5年度 第2回 玉野市工業振興会議 次第
- ・令和5年度 玉野市工業振興会議 委員名簿
- ・玉野市の工業振興に係る基本方針 2024年度～2026年度
完成案と前回からの修正箇所明記の2種類
修正箇所明記は表紙の右上に「修正赤字」と記載
- ・事務局3団体における令和6年度事業
- ・ホッチキス止めのチラシ等の参考資料

あわせて船倉会長より後ほどご説明いただければと思いますが山形A I 部からという資料、また新しい任期になりましたので委員の皆様には委嘱状をお配りさせていただいておりますが、不足はございませんでしょうか。

それでは、ここからの議事進行につきましては 船倉会長 をお願いしたいと存じます。よろしく願いいたします。

船倉会長

改めまして岡山大学産学連携課 船倉でございます。引き続き会長を務めさせていただきますのでどうぞよろしくお願いいたします。

私が経済産業省の立場もあるので国の国策が10年前と比べてもほんとに施策の移り変わりが激しくて正直ついていけないような時がございます。

だからこそ、玉野市工業振興を考える上で計画の方を5年から3年に短縮していただいてスピード感を入れていただいたところでございますけれどもこの場を使って議論を出していただければと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、議事に先立ちまして、玉野市工業振興条例施行規則により、本会議の開催には委員の過半数の出席が必要とされておりますが、この要件を満たしていることをご報告申し上げます。それでは議事に移らせて頂きます。

議事（1）

「玉野市の工業振興に係る基本方針」の改定案について、事務局より説明をお願いします。

山本係長

それでは玉野市商工観光課の山本と申します。よろしくお願いいたします。

基本方針についてお配りしております玉野市の工業振興に係る基本方針、右上に修正赤字と書かれたものをご覧頂きながらご説明させていただければと思います。基本方針の冊子の5ページをご覧いただければと思います。

こちらで赤字になっている部分が前回の会議から修正を加えた部分になっております。前回の会議でいただいたご意見を踏まえて表7・表8、商工高校3年生の出身地（岡山市・倉敷市・その他）と市内中学校卒業した後の進学地域の集計の表を付け加えております。こちら商工高校・学校教育課に数字を確認させていただいたものですが、あと表7商工高校3年生の出身地でこれを見る限り3割～4割くらいの生徒さんは市外から通ってこられているというところがございます。やはり市外から来られている学生さんは地元に戻ってしまうというのは一定程度あるのかなといった推測がされております。

表8、市内中学校卒業した後の進学地域ということで集計しておりますが、こちらを見ると約4割5割の半数近くが中学校卒業した後に市外に出てしまっているという状況が確認できました。中学校からそのまま市内の高校に進学するといった流れを生んでいく必要があるのかなといった印象を受けております。

続いて6ページに文章を追加させていただいております。先程の2つの表以外に商工高校の方にお伺いさせていただいて、今の高校生の就職感ですね、どういったことを考えて就職先を選んでいるかといったところを聞き取りに行かせていただきました。その結果ですが、前回の会議でももろもろご意見が出ましたが、実際学校の先生のお話を伺ってみると、私どもが思っているよりも前段階のレベルにあるのかなという印象を受けております。具体的には文章に書かせていただいておりますが、高校生18歳ということですので社会的に

はまだまだ未熟であるというはあるんですけども、明確な将来目標を持って就職先を決定するのが難しいという状況がありますので、前回の会議でも話題になりました、給与とか休日がどうだとか、仕事内容がどうだとか、そこにいきつく前の段階、この会社知っているからここにするくらいの状況であるとお伺いしました。

また就職感とは話が変わってくるのですが、最近専門学校の入試の時期が早まっているというお話がありまして、早い内に進路を決めてしまいたいといったような意思はたくさんあって、近年は専門学校に進学をするといった選択が増えているといったお話を伺っております。こういったお話を踏まえて高校生はまだまだ未熟ではあるんですけども、玉野市の産業として高卒人材というのも不可欠なことでありますことから、市内企業に関する情報の提供だけではなく、市内中学校をでたら半数くらいが市外に出ているという現状がありますので、小学校・中学校と早い段階から玉野市のことを知ってもらう、愛着を持ってもらうといった取組が必要なのではないかとこのことをこちらに追加で書かせていただいております。

続きましては10ページをご覧ください。上段の方、また高卒人材においてはというところから3行ですが、これは先程の数字を調査した内容と聞き取りした内容を踏まえてどうしていくかというところを、書かしていただいております。結果としては、企業を知っているかどうか重要なポイントになっているということでしたので、広く市内企業の情報を発信したり早い段階から理解を深めていただいたり、そういった取組が必要だということを書かせていただいております。

次の3番の人材の活用・発掘へ修正を加えておりますが、こちらは前回の会議の後に市議会の方に工業振興会議の内容の報告をさせていただいたところ、少し障害者に関するところも明記をしていただきたいというご意見をいただきましたので、それを踏まえて表現を少し具体的にと言いますか変えさせていただいたという所になっております。前回からの修正としては、主にこの2箇所ということになりますが、こちらの冊子の後ろの基本方針の進捗を測るももろもろの指標ですね、これに数字を入れて目標値も入れております。それぞれの内容をご覧くださいと思いますが基本方針の取組の4つの分野ですね、それぞれの分野に各種セミナーの開催数、受講者数、全て指標を入れさせていただいております。

基本方針の改定案を作るに先立ってご回答頂いたアンケートに情報提供を求めるようなお声をたくさんいただいておりますので、企業の皆様にいろんな情報提供をする、また情報発信をするといった姿勢を強めていくということでこのセミナーに関連する指標を全て入れさせていただきました。

もう一点、基本方針から離れて余談にはなってくるんですけど、昨日たまの企業ガイドの電子書籍版ができあがったということで、岡山市内の専門学校を4校、通信制の学校1校、私立高校の管理している、岡山県私学協会をご訪問させていただいてお話をお伺いしました。

概ね共通してでた話題が、今の学生の世代が様々な情報を色々な人から与えていただけ、ある意味甘やかされた環境で育ってきているとういのと、すでにデジタル化が進んだ中

で育ってきているという関係もあって自分の興味のある情報しか見ないといったような傾向が強いというお話を皆さんされてきました

そういった関係もあり就職に関しても、給料であったり休日の日数であったりを気にはするものの、そこまで大きなウエイトを占めているわけではなく、やはり自分の関心があることを優先して見ているといった印象を受けました。

その話を受けてやはり基本方針にも書かせていただきましたが玉野市の事や玉野市の産業・企業を知っていただくこと、こういったことが重要であると認識しており、また同時に各業界（製造業・飲食業など）業界に関心を持っていただく仕掛けも必要なのかなと感じております。

また就職にあたっての勤務地ですけれどもどうも地元志向が強いというお話をお伺いしております。高校生・専門学校生となると実家のある場所に左右されるということが大きいのかなと感じております。こういった点では、玉野市は岡山市をはじめとした近隣の自治体とはそれほど遠くもなく通勤圏内にあるというところがあるので玉野市は実は遠くないよといったところを、しっかりピーアールしていけば近隣の自治体からの人材確保にも一定程度は効果があるのかなと感じております。

余談を追加しましたが基本方針についてのご説明とさせていただきます。

船倉会長

ご説明いただきましてありがとうございました。ただいまのご説明に関しましてご質問などございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

藤原委員

少し気になったのが「その企業を知っている」というフレーズ。というのもわれわれ製造業は新聞とかテレビとか広告を打ってもコスト的にもったいないという意識が強かったんですけど、知ってもらおうということがいかに大切かという思いもあって、他社がやっている宣伝も効果があるのかなと思いました。民需品を扱ってないので、あまり積極的に広告媒体を利用して会社名を宣伝してもしょうが無いのかなと言う思いが強かったものですから、ある意味知ってもらおうという意味で効果があるということですかね。

船倉会長

どうも貴重なご意見ありがとうございます。

前回の会議を踏まえて実際高校に足を運んでいただいて一次情報は非常に大事だと思います、施策を考える上でも。これは先生方の生感だと思うんですけども、個人的には知っているだけで良いのかという思い、疑問が一方でございまして、知っているけどサプライチェーンの今どの部分を担っている会社なのかとか、なかなか中高生には難しい話ですがそのあたりを伝える工夫をしないと、社名だけ知っていても果たして将来、就職とか副業とかに繋がるかという、もっと踏み込まないといけないのかなと疑問として思いました。そのあ

たりについて何かお考えとかございますか。

津田課長

おそらく採用されてすぐに退職される方が多いとか、続かない方が多いというのはそこにあるのではないかという、知っているからとりあえず入りました、テレビで見たとか聞いたことあるからで入るから、自分のやりたいことと一致しないので長続きしない、思いがないから続かないのかなと思ってまして、玉野はものづくりの町ですからB to Bの方が多くて一般の民生品として手に取る物でないものですからなかなか知られていないというのと、名前は知っていても自分の思った働き方に繋がらないと、ミスマッチがでると思いますので、名前だけじゃなく実際にどういう働き方をしているか、これはどういった所にどういう風に使われているのか、そもそも働くこととはどういうことかといったところを知っていただく必要があるのかと思っています。今後またいろんな形での展開は考えていますけれど、一番初めは小学校・中学校からまず地元のことを知ってもらうという流れの中で、企業のことを知ってもらい、インターンシップなどで中の事を知っていただくとかうまく繋がらないといけないと思いますし、インターンシップは行けと言われたから行ってますだったり、話を聞けと言われたから聞くだったり、ちょっと繋がっていないのかなと言う気がしております。そのあたり教育委員会とも話をさせていただくんですけれども、小学校から高校まで一貫して繋がっているという事が感じられる仕組みが必要なのかなと。

言うのは簡単ですが、それをどううまく繋げていくかと思っております。

船倉会長

どうもありがとうございます。

デジタルネイティブは関心があること以外には興味がわからないというのはその通りかなと思います。学校だけで学ぶ時代はもう終わったということかと思えます。文科省もいかに社会に出て、高校だけでなく中学校・小学校からというのを、これを国が言い始めているので、実際そういうことをしていかないと市内の就職者数が激落ちしていますので、ここで歯止めをかけるべく新たな打ち手が必要なのかなと感じました。磯野委員いかがですか。

磯野委員

教育ですよ、例えば商工高校であつたら玉野市立商工高校なのでいろいろと取り入れてくれやすいのかなと思うんですけども、高校生が名前の知っている会社というのはどんなことかなと、トヨタとかソニーとかそういう話なら、ちょっと玉野土建がどうタマデン工業がどうと言ってもどうですかという話になる。働く場所が例えば、トヨタで自動車作る会社でも、自動車作るためにはハンドルを作らなければいけないし、ブレーキも作らなければいけないし。だから玉野の場合でいけば大きな船を造るのであれば、エンジンの中の部品を作らないといけないし、そういったものを作って堅実にやっている企業があつて、それも一生かけて技術を習得して、会社と共に伸びていくというのは大いに価値のあることだとい

うことを、子供達に伝えてあげないといけない。その下地造りは小中の時からやっていけば良いと思うけど実業高校に入っている子に関してはそのあたりのことをよりわかりやすく教えてあげないとはっきり言って全然分かっていない。ほんとに自分が今何をしているのかも分かってないし、自分が持っている知識がどれだけ役に立つのかも分かってないし、この知識だけで勝負しなければいけないのかと思っている人も多くいる。

私どもは建設業ですけども、何々高校建築家・何々高校土木課という子達は、なかなか我々レベルの会社には来てもらえない。大本組さんとか荒木さんとかにドサッと行ってしまおうというのがあって、それはその魅力があってということなんでしょうけども。その前に地元志向ということがあれば地元にはこんな、例えば建設業でも高層ビルばかり建つとるわけではないでしょうという話もしつつ、地元で働いても良い生活が送れますよということの説明する、それを学校で説明するというのが大事なのは。下地があった上で玉野市であったり、企業であったりがアピールする場というのが必要だと思う。その前の下地造りができていないから、例えば建設業でいったら、大工さんもいるし左官屋さんもあるしペンキ屋さんもあるんですよと言う話からしてあげないと、分からないと思うんですよ。高校生は自分では全然考えていないと思うんですよ、デジタルの世界で自分の興味のある事を調べると言われましたけど、自分の仕事に興味がないんです。自分がどうやってご飯を食べていくのか、自分がどうやって一生生活していくのかことさえもあまりない。学校教育でベースを作ってあげないと上っ面の話ばかりしてもなかなか難しいのでは。学校教育でやるとなってくると商工高校であれば玉野市とか我々と話して、割と伝わりやすいとは思いますが、これが玉野高校になったら県立だからどうなのっていうハードルがあったりするのかも分からないけど、玉野高校でもしかりでベースになる職業観というのを学校で授業としてやらないと、なかなか伝わらない。

トヨタにいかないと車は造れないっていう話で、ハンドルもすごくいい物を造っている企業もあるわけですから、その企業の素晴らしさ、1つ1つの物を組み合わせて最後はトヨタさんが1つの車として出すんですけど、このここのブレーキすごいんだよとかブレーキの中のこの部品ってすごいんだよ、あそこの会社がないと良いブレーキが造れないんだよといったことも、学校で教えてあげて欲しい。そういう下地があるところで玉野市であり、我々企業の方がどうですかというような話をする。ベースをなんとかつくってあげたいなと思う。商工高校、この前話を聞いたら9人くらいしか就職してないと。

津田課長

昨年が26人で。今年もそんなには変わらないと思う。就職50数人の中で市内就職がその内の何割か。

磯野委員

地元志向という話がでてたんだけど、地元志向に当てはまってない。大半の60パーセントが玉野市に就職してるんですよとかで地元志向なんですと言うのならなるほどと言う

話だが、その辺も何人卒業して何人が玉野市に残ってくれて、その内のサービス業にいった人が何人でものづくりといった何人でというくらいは明確にだしとかなないと、いけない。

ものづくりの良さというのも学校で教えていかないと、SNSじゃなんぼ見ても分からない、大工さんが今いないから大工さんになったらすごいよとか、できれば良いと思う。わたしもそういう話をしてるんですけども、建設業とういのは始まって以来一度も途切れたことのない職種なんです。みんなも話を聞くとは思うんですけど技術者は少ないんです。技術者は少ないんですよと言う話をする時、みんな聞いてないんですよ。学校の方でねそのあたりまでは教えといてもらえるとねいいなとほんとに思います。最高技術者だけで世の中動いているわけではないんですよ。そういったことを、子供達に教えてあげたらね。みんなが大谷選手になれるわけじゃないというのは子供達も分かっているけど、その周りにいっぱい野球に携わっている人がいるんだよということも、それは何となしに分かっているのかもしれないけど、働くことに関してはそのあたりまだ高校生は分かってない。高校生が分かっていないのは若いからではなくて、教えられてないから。学校の方にベースになる職業観とかどんな仕事に就いたら将来こうなるよという、学ぶ機会を用意してあげてくれたら1つとっかかりになるのかなと思います。以上です。

船倉会長

貴重なご意見ありがとうございます。教育との連携が不可欠という条件かと思いますが、実現の可能性といいますか、探求の時間をうまく活用してというのが1番可能性が高いかと思いますが、そのあたり先生方とお話しされていて、探求の時間例えば玉野市の工業の全体像を1年生の時に教えるというのをしかけられる可能性はどうですか。

津田課長

総合的な探求の時間というのは生徒さんが自分たちでこういうことをやりたいというのをテーマにするものですから、やりたいと思えることにまずあがらないという難しい部分もあるんですが、その中でも商工高校さんのやっている総合的な探求の時間の中では実際に作品を作って宇野港の緑地の所にハート型の物を2月くらいには設置になると思うんですが、三井造船港内の企業さんと連携して作ってみたりとか、船の模型を作ったりとか、それが授業なのかなとういくらいいろんなバラエティに富んだものを、特産品を使ったケーキ作ってみたりいろんなテーマがあるもんですから、そういった中、実際に関わる中でどういう風な作業、どこの部分に関わっているのかというのが見えてくるんだと思うんです。ただ高校生になったからじゃあ考えましようと言っても、先程お話しじゃないですけどほんとに自分がこれやりたいと思わないとやらないですから、中学校でも今探求の時間がありましてその中で地元のことを勉強しようというのがあって例えば観光を勉強してみようとか、いろんなのがありますがそういった中にもものづくりの分野も入れていただくとか、その時には市内7中学校あるんですが、7中学校の複数クラスがあったらそれぞれがいろんな企業さんに行ったりとか話を聞かせてということになったら、それはそれで企業側は一

定の負担にはなろうかなと思います。そのあたりをうまくですね、連携、繋げて企業さん側もうまくピアールできるし、地元のことも知ってもらえるような組立を繋げていけるかなと思っておりますので、そのあたりまた学校の先生とも話をしないといけないと思っております。

船倉会長

そこは是非ご検討いただきたいですが、中学校の1年生の時に2ヶ月や3ヶ月とかまつまってベースとなるようなインプットをするような機会を作ると興味がわくのではという気がいたします。是非ご検討をお願いいたします。

岡山大学でも半導体人材を育成しようという取組をやっていますけども頑張らないといけないのは企業さん側も伝えるプレゼンテーション能力といいますか、学生の反応を見ると他の半導体製造会社何社か紹介いただくんですけどもプレゼンの上手下手で学生の反応が全然違う。多分中学生となるとさらに顕著なんだと思います。つまりいかに分かりやすく伝えられるかという伝える側の努力というのも大事なんだと思います。でするのでそういった研修とかですねもしかしたら効果的なものかもしれないです。

藤原参事

今年度コロナもあけまして各中学校とかもここ3~4年、なかなかそういったリアル强企业とか地元と接する事が出来なかった中で、今年度から総合的な探求で1年生が地元の特産とか自分たちの企業とかの地元のことを調べる、2年生で聞き取りに行っている人々にインタビューしてまとめる、3年生でそれをもとに発表して提案をしていくといった取組をうの中学校の方では見させていただいたんですけども、徐々にこれからの若いうちとか少しでも地元の小学校・中学校あたりからの地元での取組というのが、学校の方での必要性というのを高めていますので、高校になりますとある程度知るか知らないかというのが固まってしまっていて、高校の先生も高校に入る前の問題部分が悩ましいといったことも聞いたりしました。だからこそ長期的といいますか長い目で見た人材教育、そういったものの中で企業を知っていただくカリキュラムを作っていくことが重要ではないかなと肌感覚でも事務局の方も感じておりますので、そこは教育委員会の方もしっかり巻き込みながらこういったところでのご意見の中での関わりを深めていけたらと思います。

船倉会長

ありがとうございます。

磯野委員

ちょっといいですか。

私は、中学校で社会人の話を聞く会という授業をやっていて何度か行かしていただいたんですが、1年生だったか建設とかはどんなんですよという話を40分くらいさせていただく

んですが、それはそれで価値はあると思うけど、それ1回でも中学校1年生は聞く体制になってない子が、というか何人かは聞いている子はいるんだけど、例えば建設業の話をしませとゆったら5・6人の講師が呼ばれるわけだけでも、あなた何、どこのどんな仕事の話が聞きたいと言う話があって、その中で適当に10人10人と割り振っているんだと思うんだけど、ほんとに興味がある子ももちろんいるんだけど、子供達は言われてるからよく分からないけど来ましたみたいなんです。何回か繰り返してると多少変わってくるとは思うんですけど、教育というのは同じ事を繰り返ししてやるというのをしないと、頭に入らない。想像力を発揮できるだけの知識が無いというのがあると思うので、そういうことをやらしてもらったけど1回だけではどうなのかなと。うちに商工高校の卒業生が技術屋として入ってくれ技術屋になってくれている子もいるんですけど、自分は商業高校だからものづくりの方は違うんだと思っている子もいるんですよ。小・中と勉強してきて、高校で商業の勉強をして簿記の勉強をしていたからそっちに進まないといけな思っている子もいる。そういう子供達に、今からでも、これからの話なんだからこれから勉強すればどんなところでもいけるんですよ。大学生も文化系の大学を卒業して歴史学科とかをでてうちに技術者として入ってきてくれて資格をとってやっている人もいる。そういう話を自分は文系だから文系に行かなきゃいけないとか、自分の思い込み、昔はそうだったのかもしれないけど、今の時代大になったら大手しか目に入らないとかあったりするもので、その積極的に我々は我々で問いかけるんですけど、商業高校で3年間勉強したから商業の知識がついてるかというとなんかそんなことはなくて、社会に出て買物するには便利くらいなことだろうと私は思っている。自分が高校生の時はそんなに突き詰めてやっていたわけでもないし。そういった意味でどんな方法にでも進めるんですよ、ただ今やっているのは、これはこれで基礎知識だから頑張っねと、これからの君らの将来はまだまだ幅広いですよということもあわせて伝えていけたら良いのかなと。就職して全然違うわとやめていくことが多くて、うちに入っていた子もコンクリートの臭いがだめだとゆって、それはだめだなあと、いろんな方がいる。

船倉会長

ありがとうございます。

企業様目線で色々ご意見をいただきましたけども、その他何かございますでしょうか。

藤原委員

今話を聞いてもっともなことだなと感じたんですが、職業観というものどうとらえるかという部分で、人生とは、それから人生の中で仕事を選ぶということはどういう風な考えをすとか、いろいろ哲学的な部分も出てくるような気がします。それを18歳・22歳の人間に求めても難しいような気がします。ある程度年をとって気づくことで、見切り発車で分からなくてもいいじゃないかという部分も持ちながら、就職するんだと思うんですけどね。

そんな目利きがしっかり出来てから就職するかなと。結婚する時に、ある程度の年の時にしないとできなくなるというような話を昔聞いたことがあるんですけど、目利きで出来る

範囲が広がると時間がかかってできなくなるような話で、職業も一緒の様な気がするんですよ。ある程度親がいろいろ言いながら自分の生活野中で考えて面白そうだなこれにしようと考えていくのは昔からの就職の仕方だと思ったりするんです。だからあんまりいろいろ準備を整えてさあ選べどうぞと言っても無理なような気がします。その18年間どういう生活をしてきたかどういう風な会話をしてきたか、家庭生活をしてきたかでいろいろ決まるような気がします。学校でどれだけ教育をするぞと力を入れて教えても、家庭や友達にはかなわないと思います。家庭や友達などから影響をものすごく受けると思います。学校の進路指導の先生の影響は昔はあったらしいけれど、最近は少なくなってきていると聞きます。道徳公民の学科として教えているのかな、哲学を教えるとしたら。

津田課長

道徳の代わりに総合的な探求の時間みたいな形が変わって行って、押しつけるのではなくて自分たちで考えよう、という流れになってきたんですね。

藤原委員

その時間をとったらどうかと言う思いはしています。

自分で判断する力を養うという部分でも、ただ情報が一杯あるからそれを知ってもらうといっても、情報過多ですよ。多すぎて判断力が無かったらどうしようもない。

津田課長

そこはおっしゃるとおりでして、人手不足だと企業側が言っているということは、逆に言うと生徒さんからするといくらでもメニュー・カードが並んでるすよね、そうなる慌てないんですよ、結局今働かなくてもまだしばらくカード残ってるよね、とかっていう話にもなりますし、だったら進学して少し働かずに専門学校に行ってとなったりというのもありますし、なんならバイトで食いつないでも全然困らないというのもあり、いざ働こうかとなった時に採用試験が結構高レベルで楽観しすぎた部分もあったり、いろんな情報過多なんですよ、与えられ続けられることにより困ってない。カードの多い中で選ぼうとなった時、目立つカード選んでしまう。こういった形が良いのかはなかなか正直分からないというところではあるんですけど。少なくとも学校の先生、高校の先生というのはまだ進路担当の方がおられて企業の方と話をする機会がいくらかはありますが、中学校・小学校の先生がなかなか企業の方と話をする機会は無いですので、中学校・小学校がいろんな形で地域のここと関わって欲しいという思いがあれば、逆にこちら側も話ができる場を設けてですね、こういった形でなにかできないかと意見交換できる場をつくれなかなと思っております。

磯野委員

藤原委員のお話を聞いて思ったんですが、親御さんが自分の子供達の就職に関してよく

聞のが、子供が好きなどこへ行ったら良いと言うんですが、自分の子供の適性を見て何パターンか親御さんがうちの子にはこういう仕事が向いているんじゃないだろうかと思う、そういう親御さんの教育、それを教育と行って良いのか分からないですが、そういうこともしてあげたら、今藤原さんがおっしゃったように、これとこれでやってみようかとやっている人も多いんじゃないかなと思う。親御さんが全然興味を持ってないというか子供に任せるということでそれに関わらない、お父さんが言ったからこへ行って、こんなの嫌だったんだと言われたくないから、言わないっていう人も結構おられるんじゃないんですかね。親御さんにも一定の知識を持ったり子供にアドバイスも必要なんですよというのも伝えてもらえたらね。多くの親御さんは息子は娘はと考えているんだろうけども。

津田課長

「親学」というのを教育委員会とか学校とかで必要じゃないかと言われていた時期がございまして、これは就職に限らず教育というのは学校だけではできないものではないので家族一緒になって、昔は当然家族がメインだったと思うんですが今は学校がすごいきっちりできすぎているもんですからそこをお願いしたいという思いがあるんですが家族一緒に考えましょうとという流れがある中で、今は若干考え方が変わってきているんですが、就職の際に親の意見が大きいんじゃないかということで、この企業ガイドを作った時には家族で話ができるようにという形にして、なかなか冊子じゃ見てくれないしというのでデータブック電子化をして、電子化だったら親もスマホで見られるし、家族で見て一緒に議論して欲しいなということで、そんな形で少しずつ変えさせてはいただいています。例えばPTAの集まりなどで親御さんもこういう形で見てくださいねとできればと学校側にもお願いをさせて頂いたりはしているんです。最近のニュースでは都市部で、企業が採用通知、仮採用みたいに出した時に実際現場に来ると嫌だとゆって来なくなる人がいるみたいで、親も連れて一緒に親と本人が会社見学を見てもらってどうぞこういう所ですから安心して来てくださいというような、そこまでしている企業もあると拝見しまして、どこまでするかというのはあるんですけど、これだけ子供の数が減ってく中で子供さんに対する親の思いというのが昔とは多分だいぶ変わってきているというところもあります。ご家族も一緒に考えられるような場を作ったり、ご家族にも知ってもらおうというのが必要かなと思っております。

オブザーバー（市内金融機関）

私共、毎年インターンシップで4・5名の受入れをしている訳ですが、去年は4名、女性の方が3名、男性が1名、1名の方は大学進学希望であった。なぜおかやま信用金庫にインターンシップに来たのと聞くと、先生に勧められたからと、3名の内1名は高校卒業したら金融機関で働きたいと、だから来たんですという話で、もう1名は消防士になりたいというお話でした。もう1名はまだ決まってないという話で、じゃあその2名ですね消防士と金融機関、自分の考えみたいな話をした時に、消防士希望の方は親戚が消防士でどんな仕事をして

社会貢献で人のためになる仕事だと聞いていると、その話を聞いて私もそういう道に進んでみたいという話がありました。金融機関希望の方はどうも親御さんが、窓口に来ているみたいで仕事が9時から17時、9時から15時までという時間で土日が休みで安定しているからあなた金融機関にしてみなさいよと言われたんだと。2日勉強してみてやりがいがあるのではと感じていると、先輩からの話も聞いて、ますます入りたくなったという話でした。

残念ながら私共は5年前から玉野からの就職率が0で、大学生に寄ってて、それは要望には出しているんですがなかなかじゃあうちに来なさいというお話はできなかったんですけどやはり、親御さんとか周辺環境って大きいんじゃないかと思ったのと、はっきり決まっていなくて人の大学進学の話の聞くと、親御さんはどう言っているの聞くと選択の幅を広げるために大学に進学しなさいと言われていています。今時の親だなと思いますし、私自身もそう言ったと思います。これは今の親御さんの現状なのかな。ある意味自由なんですけども、子供さんにそこまで将来的な関心がどうなのかなという感じを自分を含めて感じました。冒頭の話の企業を知ってもらうためにという話で、コロナ前の話ですが、ある製造業さんが大きい機械で増産体制入るんだけどオペレーターがいないという話で募集をかけているけど一向に来ないみたいな話だったんです。でコンサルを入れられて、あの当時でしたら多分結構先進的な試みだったと思うんですが、設備を稼働させるために人材採用の設備投資をされたんです。まずしたのが工業の内装、床の張り替え、電球をLEDに、更衣室はホテルみたいな更衣室に、今は当たり前ですがホームページ、社長さんの理念、社長さんが現場に立ち会って、もっと笑顔でと指導を受けながら、ホームページから飛ぶんですね動画を撮って、うちの企業はこうなので是非一緒にやりましょうと、一緒にやるというのが大事なんですと指導を受けながら、あと工場長さんや身近に接する方の一言ずつのコメントみたいな。どうなるかな、ここまで費用をかけてやって人来るのかなと、ただ来ましたね何人かは。やっぱり聞くと高校生の方は当てはまらないかもしれませんが、大学生や中途の方はまずHP見るのかな、HPを見てある程度企業を下見してから応募するらしいですね。そういった効果もあるというお話もありましたのでご紹介させていただきました。以上です。

船倉会長

貴重なエピソードをありがとうございました。こういった人材への投資という言葉はすごく大事で良いと思います。これはあきらかに投資だと思います。それをしないとできないとすればそれこそ、補助の対象の一つになるのかなという気がいたしましたし、分岐点になった後に親御さんと一緒に見に行くとかですねあり得ると思いますし、ホームページもそうですけど今時の子達ってホームページで口コミとかよく見ますよね、やっぱり口コミはサンプル数が無いと不安に思っちゃいますよね。そういうところも評価していかないといけないのかなという意味でなかなか自社だけの努力だけでは難しいところにご支援が必要なのかなという気がいたしました。貴重なご意見ありがとうございました。

では続きまして、議事の2事務局3団体における令和6年度事業について、まず玉野商工

会議所より説明をお願いします。

玉野商工会議所

ご説明させていただきます。資料事務局3団体における令和6年度事業ということで見開きの所に次第が1枚あります。1枚にまとめさせていただきました。

玉野商工会議所は玉野市の工業振興に関するアンケート結果を踏まえ、現在の経営課題解決の障害になっている人材不足に対応するために、主にデジタル化を推進し業務効率化(生産効率の向上)に取り組む。まず最初に人材不足ということで

「岡山県DX普及推進体制強化事業」ということを、岡山県商工会議所連合会がずっと行っていますがこちらを紹介させていただきます。資料をご覧ください。

業務を効率化できるツールの紹介で

「調整さん」という会議等の日程調整をやってもらえるということでこういう紹介や、

「クラウド会計(Money Forward)」「google フォーム」を使っての参加者さん名簿の作成とかアンケート等の集計などを紹介させていただいています。実際に港フェスティバルの集計とか、こういった質問のほうにチェックしていただいて集計結果が出るというようなこともしてもらっています。

「google ビジネスプロフィール」ということで、皆さんご存じかと思いますが、ネット上で営業日や営業時間を記載して電話等による問合せを省いて、ネットで周知させてもらうという。口コミに返信ができないとか、管理が出来るようになることで、今まで勝手に書き込みがされていたものを、メッセージを送ることができるというようなことをさせてもらっています。

それからもう1枚チャットGTPの活用セミナー、2月2日今日行われているんですが、質問をプロトコルのこつとか、自社で受ける活用方法とかこういったものを説明させていただいています。今後もこういったセミナーを考えています。実際こういったカタログを東京商工会議所が作っております。誰でも見ることができ、資料には入れさせてもらっていませんがAI活用入門ということで検索してもらおうとカタログが出てくるということになっております。その中で人手不足ということで募集要項の校正とかSNSでのピーアール文作成でしたり、こういった物に活用してもらったりとか。製造業ですと業界とか市場情報をチャットGTPに聞いたら、業界の課題解決や価値向上など市場開拓などの情報収集やアイデア達に活用してもらっていることが載っています。

次第に戻りましてセミナー、相談会の実施ということでデジタル化に向けた施策と各種支援策に関するものということで、①番が働き改革とか、②番が電子帳簿保存法という今年はやらせてもらっています。こういった制度改正に関するものとか、③番から⑥番までの環境変化ですけど、消費税のインボイス制度の導入とかいったもので、こういったデジタル化、労働法制への対応に向けたデジタル化、賃貸管理ソフトとかそういったもののセミナーを開催しております。それから販路開拓支援ということで、販路開拓に向けての伴走支援とい

うことで先程も申し上げたとおり、自社の情報設定（Google ビジネスプロフィール）とか活用を呼び掛けたり、情報発信ということで SNS（X・Instagram・Facebook・YouTube チャンネル）を用いての効率的な販促、自社の PR を行うということも周知の方させてもらっています。商工会議所が運営しております日本最大 取引支援サイトというのでビジネスモールというのがあるんですけど、こちら商工会議所等の登録企業同士が無料で自社のピーアールとかマッチングができるサイトとなっております。こちらの方も入れるように窓口を開かせてもらっています。

次第に戻りまして、人材育成ということで、たまの未来塾へ皆様、ご出席くださっている方もおられますが、年11回、玉野市での経営者・若手経営者が対象でリーダーとしての心構えを始め、スキルアップや見解を広める目的として開催させていただいており、来年度も開催予定です。

新入社員研修会ということで事務系全般・接客対応でこちらのほう4月2日火曜日9時から16時15分で決定しております。こちらの会場での開催を予いたしますので是非ご利用をよろしく願いいたします。

以上が簡単ではございますが玉野商工会議所の施策ということになります。

船倉会長

ご説明どうもありがとうございました。これに関しまして質問やご意見がございましたらお願いいたします。

よろしいですかね。この後振興公社様と玉野市様のご説明の後に時間をお取りしますので、つづきまして玉野産業振興公社様の方からご説明をお願いいたします。

玉野産業振興公社

はい。玉野産業振興公社の柴田と申します。着座のまま失礼いたします。

それでは令和6年度の事業の概要につきましてご説明いたします。まず資料の2ページをお願いいたします。1番目の研修・セミナーの開催及び研修支援でございます。①職人塾の実施でございますが、基幹産業である造船業等における技術及び技能水準の維持向上を目的としまして、研修により企画実施するものでございます。19年度となりますR6年度におきましても、溶接・鉄工分科会、機械加工分科会それぞれのカリキュラムを実施する予定としております。その中で機械加工分科会の研修につきましては現場のリーダー向けの研修と新人向けの研修を隔年で実施を予定しております。令和6年度につきましては現場のリーダー向けの研修を実施予定でございます。

溶接・鉄工分科会につきましては、自動溶接の研修、機械加工分科会については今年度は令和6年度につきましては5Sの研修を今回初めて企画をしようとしているところでございます。

続きまして2番目の新入社員教育研修でございますが、こちらは当公社が地域のものづ

くり企業の新入社員に対しまして、新入社員の心得ですとか、玉野市の歴史、その他、どちらといえば造船関連の内容に特化したものではあるんですが、基礎知識の習得を目的とした、研修で4月に3日間開催する予定としております。

続きまして3番目の専門家派遣の支援です。こちらは専門家派遣事業の情報の提供と関係機関への取次ぎ、他に企業さんが専門家を活用された時にはその費用の一部を助成するものでございます。助成につきましては企業さんが負担された部分の2分の1、上限5万円を予定しております。

資料3ページをお願いいたします。企業支援でございます。①企業訪問及び相談業務ですがこちらにつきましては、市内の製造業を中心に訪問しまして、補助事業や支援事業の情報提供や、意見交換等々を重点的に行うというものでございます。

②番目の企業の福利厚生支援ですがこちらは、こちらは市内中小企業の福利厚生支援のため、玉野勤労者福祉サービスセンター事業というものを、平成11年度から運営してきているものですが、令和5年12月末現在では製造業関連企業は49社、641人が加入いただいております。今後も加入企業数の増加に努めるとともに造船関連企業等の雇用確保の策の一つとして採用の際の差別化や離職防止の一助として当サービスセンター事業が活用いただけるようサービスの充実を図っていきたいと思っております。

つづきまして③番目の企業情報データベース化及び情報化支援でございます。①玉野市企業情報データベースの運営、こちらは市内企業の情報収集のために企業を訪問しまして、企業の持つ技術や設備の情報を当公社のホームページ上で発信するものでございます。あわせて新規登録企業の増加、及び掲載しているデータのメンテナンスを重点的に行っていくと思っております。

資料4ページをお願いいたします。玉野市定住促進協力企業当の情報発信でございます。こちらにつきましては市内の学校に通われている中学生や高校生、就職を希望している人に対して、採用に積極的に取り組んでいる市内の企業や「たまのの定住促進協力企業等登録制度」に実際登録されている企業等について、SNSを活用しまして情報を発信しPRするものでございます。

つづきまして③番目の産業振興公社ホームページの充実でこちらは当公社のホームページに情報等を掲載しまして積極的に情報を発信していくものでございます。

以上駆け足でご説明しました。以上です。

船倉会長

ありがとうございました。ただいまのご説明に関しましてご質問はございますでしょうか。では最後玉野市様の方からご説明をお願いいたします。

玉野市

それでは玉野市の来年度の事業のご説明をさせていただきます。資料は続きの5ページ6ページ7ページに掲載をさせていただいております。5ページですが中小企業の支援ということで(1)から(6)まであげさせていただいております。こちらの(1)(2)が補助金に関するもの(3)が融資に関するもので(5・6)が計画認定をされたものについて税制優遇がある制度ですね、これは今年度と変わらず実施していこうと思っているもので、(4)の副業人材活用推進事業ということで、こちらは今年度初めてまずは試験的にというところで実施させていただいております。それを来年度は本格的に力を入れて重点的にやっていこうというものです。ちょっとイメージがわきにくいかもしれませんが、企業が抱える課題に対してプロの人材に支援に入ってもらって解決に進んでもらおうといったものです。なので現場のいわゆる労働力としての役割は無いんですけれども、側面的に人材不足を保管できるような活動になればこちらの事業を今年度やらせていただいております。チラシをまとめている資料のほうですね、4ページから6ページですね、今年度やっている事業を市のホームページでご紹介をさせていただいております。そちらをプリントアウトしたものです。今年度は試験的にというところで、まずは3社にご活用いただいて実施しております。それぞれこういった課題があるということで、テーマを設けて副業の人材を募集する、副業に人材とマッチングする、今まさに副業の人材によって支援が進んでいる最中となっております。どのような形で副業の人材を募集したかというところが、チラシが載った資料の8ページから14ページまでですね。副業人材とのマッチングをする専用のプラットフォームサイトがあります。今回の資料ではスキルシフトというサイトを使っているんですけども、こちらに実際に掲載された求人の記事を載せさせていただいております。ちょっと文字がつぶれていて見えにくいかもしれませんが、こちらをみていただければどうやって副業の人材を募集しているか、どんなテーマで募集しているかをご理解いただけるのかなと思います。またこちらご覧いただければと思います。来年度も本格的にやっていこうと思っておりますので是非ご活用いただければと考えております。

元の資料にお戻りいただいて6ページですね、大きな2番雇用対策というところになります。こちら基本的には例年と同じような形で事業を進めていければと考えておりますが、(2)玉野市合同企業説明会(新規)と書かせていただいておりますが、来年度初めての試みにはなりますが市内の企業を集めて、合同企業説明会、これを市内で開催できればと準備をしていこうとしております。あと雇用関係で新しい部分としては(6)たまの企業ガイドの作成、こちらは例年企業ガイドの冊子を毎年更新しておりますが、今年度初めて電子ブック版を作らせていただきました。2023を電子化しております。これを引き続き来年度も2024の冊子をできるだけ年度の早い段階で電子化をして、広く市内だけではなくて全国の大学なり専門学校なり、そういったところにも発信をしていければなと思っております。資料の最後の7ページですね、こちらは主に企業誘致の関係のお話になります。3番の企業誘致関係ですねこちら基本的には今年度と同じような形でさせていただきます。 (3)はワーケーション発信と書いておりますが、こちらは昨年度、今年度と関係人

口を生み出して、市内で働く人を増やしていこうといったところもあってワーケーションのお試しツアーというのを実施しておりました。それを来年度はツアーの実施からワーケーションに関する情報発信を進めていこうと、少し次の段階に入っていこうと考えております。こちらの企業誘致関係の（５）ですね、在宅ワークセミナーということで、主に子育て中の女性というのをメインターゲットにして在宅ワークで仕事を取っていただける、そういったスキルをつけていただけるようなセミナーを今年度初めて実施をしております。こちらでも来年度継続して人材不足をこれも覆面的に互換出来るようになればと、今働きたいけど働き方次第で仕事ができる、そういった方を活用できるようにといったことでセミナーを実施しております。こちらの資料には載せていないんですけども、このほかに人材確保に関するところで企業説明会とか就職面接会とかへ出展する時のピーアールできるポイントであったりとか出展する時のポイントであったりとかを教えてもらえるセミナーであるとか、高校とか大学の方をお願いして今の学生の実態を教えていただける機会であったりとか。在宅ワークセミナーに関連して、在宅ワークセミナーは働く側の人ですね、在宅ワークで働ける人を育成するというセミナーなんですけど、それとは逆に企業の側ですね、在宅ワークで仕事をしている人もいるよと、こうした人をつかうことで外注の形にはなるんですけど、こういう方を活用して仕事をまわすということも可能ですよと、こういったことをご紹介できるセミナーになっております。そういったものを考えていければなと思ってやっております。非常に簡単ではございますが市の来年度の事業のご紹介とさせていただきます。

船倉会長

ありがとうございます。何かご意見等ご質問ございますでしょうか。

私から一点よろしいでしょうか。副業人材の方ですが募集要項で月 3 万円で募集かけられていますが、何名くらいご応募いただいたのでしょうか。

山本係長

具体的な数字が手元にはございませんが、3 社今回の事業に参加していただいております、それぞれ 2 週間から 3 週間くらい求人を掲載しました。それぞれ 10 名から 20 名弱のご応募があったと、いう形になっております。

船倉会長：1 社あたりですか？

山本係長：そうですね。

船倉会長：それは、岡山県内、県外どちらが多かったのでしょうか。

山本係長：県外がメインで東京から、福岡の方もいましたし、全国からという感じでした。

船倉会長：基本的にはリモートでオンライン、ミーティングをしたりとかという、そういうふうな副業の仕方ですかね。

山本係長：そうですね。基本的には週 1 くらいで定期的なミーティングをして、ミーティング

とミーティングの間でお互いに宿題を設定してその間進めていただく、でまた次のミーティングですりあわせをして次の段階の宿題を進めるような形です。

船倉会長：すごいですね。3万円で来てくれるんだというのが率直な感想です。かつ応募がそれだけあるのであればもっと拡大できるんじゃないかという気がいたします。人材不足でこれほどみなさん困らせていらっしゃるので、この事業に非常に期待をしております。

山本係長：ありがとうございます。参考までに1つ極端な例ではございますけれども、販路開拓とか営業の部分で、1つ営業部門を完全に副業人材だけに任せてしまうと。そういった活用のされ方をしている事業者さんもいまして、副業人材を20人とか30人とか応募をして販路をすでに持った人材が各地にいらっしゃるので、そういった方を活用して新たに開拓しなくても、その人材が例えば東京支店の様な役割をすとか東北支店の役割をすとかそういったような使われ方をしている例もございました。

船倉会長：なるほど。今の時世に合っているといますか、高齢人口という言葉も出ましたけれども、こういう業態を変えていかないとなかなかいけないのかと思っておりますので、この事業をさらに加速しているんな気づきがあればと思います。

他に何かございませんでしょうか。何か気になること関心があることございませんでしょうか。藤井様いかがでしょうか。

藤井委員

そうですね、時流に乗った支援の方を網羅されて実施されているところを見せていただきました。DXの推進というところでは、商工会議所様の方でも、一部Googleなんかのツールを使ってのセミナーも開催されていると思うんですけども、こちらは参加される企業さんというのは多いんでしょうか。

商工会議所：セミナー自体はあまり多くはやっていないんですけども、個々に訪問するなり紹介をさせていただくということでございます。

藤井委員：相談が多いというようなイメージでしょうか。

商工会議所：相談が多いといいますか、こちらから積極的にさせてもらっております。

藤井委員：DXを活用していきましようというような普及をされているということですか。

商工会議所：いえ、DXはこれからです。

藤井委員：分かりました。DXといっても無料ツールを活用しながら小さなところから支援していくというようなイメージとお見受けしたんですけども、それも事業者さんの希望にあったところから支援するというような選択でされるイメージでありますか。

商工会議所：そうですね。事業者さんに寄り添った、事業者さんがこうやりたいというものに寄り添ってやって行きたいと思います。

藤井委員：ありがとうございます。

船倉会長

ありがとうございます。

この施策に期待しているとかございましたら、前田委員いかがですか。

前田委員

そうですね、ざっと見させていただいて、玉野市さんのところの施策は、先程磯野委員も言われていた、もっともっと中高生に対してという話とすごくマッチしているのかなという印象受けましたので、是非インターンシップだとか市内企業の合同説明会っていうところを、どのくらいの規模感になるのかが分からないですが、新規事業でもありますのでそこは期待しつつですね、逆に市内の企業もきちっと積極的に参加するような形にもっていったらなとすごく感じますので、出たらいいことあるよというのを、玉野市の方からも言っただいて、商工会議所としても企業様にアピールしながら、せっかくやるなら大きい規模でやりたいなと思います。

2月の17日に玉野市商工会議所青年部の方で新しい事業として、中学生高校生を対象とした、実践的な仕事の紹介みたいなのを備南高校さんを使わせていただいましょうという、まだ計画段階ですが準備しております。それも初めてやることなので、どれくらいの方が来てくれて、どんな形になるかというのは正直やってみないと分からないですが、ちょっと知っていただく機会、アピールする機会を企業側からつくっていくというのは非常に大切だと私自身思っていますので、それとこの施策が色々マッチしていけば玉野市っていろんな会社があるよと伝えていけるのではないかと思います。今三井E & Sのほうにもですね、社長の方にどんどん玉野に来ていただいて社長のほうから発信してくれと、今日宮原さん居ないんですけども宮原さんと一緒に一生懸命三井E & Sさんのほうにもアピールさせていただいております。この間、東洋経済さんが三井E & Sさんの記事を書いているんですけども、やはり造船から今業種変わっていますよというところのアピールというのを、徐々に徐々に知ったり、三井E & Sさんとしてもやってくれたりしておりますので、そのあたりもアピールしていけたらいいなと。これがすぐにすぐ就職に繋がるかと言われたら分かりませんが、彼らが一回東京なんかに出て就職してみても、藤原委員が言われたように、いろいろ選択肢の中で選択してもらって、やはり上手くいかなかった時に、そういえばという少しでも頭の中に残ればなという気持ちでございます。企業側もしっかりやらなければいけないし、そこには先程言われたように、プレゼンテーション能力ってやっぱり

企業側は弱いのでそういったところのサポートしていただけるような機会があれば我々としても助かるなと思います。SNSを使うというのはSNSが上手な人もいるし、いぎしゃべるほうが上手な人もいるし、そこで企業の魅力が失われるような事にならないようにできたらより良いのかなと思います。

船倉会長

ありがとうございます。プレゼンについては私たちも使うんですがチャット GPT というプレゼン資料を作れるものがございまして、伝わりやすく全部考えてくれてすごく楽なんですよね。よく一般的に使っておりまして、使っている方は使っていると思います。そういうセミナーや研修をやってみて40・50代のかたでも簡単に使えるので、知っているのと知らないのとでは差が出てきてしまうので、そういった有用な是非情報提供をお願いいたします。

藤原参事

その件につきまして、前田委員さんのおっしゃったこととかを踏まえた形で少しやはり市内の製造業さんのピーアールとか今の若い人、中途採用含めて求職者の方に響くような内容とはどんなものかというテーマで、会議所もしくは市の方でセミナーなども企画していきたいなど内々では検討しておりますので、そういったところでしっかりご活用していただけたらと思います。どうぞよろしくをお願いいたします。

船倉会長

ありがとうございます。その他ございませんでしょうか。よろしいですかね。

これにて以上となりますけれども、私の方から情報提供よろしいでしょうか。

山形 AI 部というものです前半の議論の内容と深く関係しますので情報提供いたします。

全国的な先進事例として注目されている取組でして、山形県の中で起こっていることなんですけど、2 ページ目をご覧くださいいただければと思います。山形県の中では企業 65 社、行政・大学と書いておりますけど、企業の中で学校と企業と自治体が上手く連携をしながら、企業を知るだけではなく実際学生が企業の所に行き、手を動かして物を作ったりいろんな経験を実体験としてやるというのを県で全力をあげてやっているそうです。参加している高校の数がすごくですね、山形県内の 8 割くらいの高校が参加しております。資料中程にあります参加校一覧で青のハイライトがかかっているところに主要校が参加されてまして、ここの高校の話では探求活動の時間を使って、先程の山形県内の 65 社の企業の所に高校生が授業の一環として行って、コンセプトは AI を使って生産工程を改善できないか、もの造りの効率化をはかれないかとか、そういうことを 26 校の高校の生徒、数で言うと数百人になると思うんですけどもやっているということです。目的はデジタル人材の育成ということではあるんですけども、福知的な効果として高校時代に企業の所へ行って社員さんと一緒に物を作るという経験をするわけですので、間違いなく一生ものにはなりますし、就職するかは分かりませんが、後々帰ってくる動機付けにはなるかと非常に注目しております。岡山大学としてもこのような取組を参考にしながら、似たようなことを来年度からしかけたいなど思っているところでございます。今国の文部科学省の補正予算、DX ハイスクールを作るという話がありまして、日本全国で 1000 校を指定して 1 校あたり 1000 万補助してというのを募集しておりますけれども、この 1000 万を使って何をするかと

言いますと、文科省から言われているのはとにかく高校生を現場にだして、学校の中だけで学ぶだけではなく、課題解決学習をやりなさいというための予算とだ理解しておりまして、コンピューターとか3Dプリンターを入れるだけじゃなくて、地元の企業ですとか大学生ですとかと一緒にとにかく外に出て学んできなさいと言うところで、国も後押ししてくれているので、このチャンスを逃さないようにですね、山形AI部のような取組をできれば岡山県全域でやっていきたいなという風に考えております。こういった形になるかは分かりませんが、是非玉野市様もこちらの枠組みができましたら真っ先にご相談させていただきたいということで今日ご紹介を致しました。やはり高校生でも十分通用するらしんですよ、デジタル分野というのは、十分通用いたしますし、それを支えるためにちゃんとしたカリキュラムも用意して1年生の内にしっかり学んで、2年生の時に発揮するというのが、大学生じゃなく高校生の内に十分できると実証されていますの、山形じゃなくてもできるはずだと、絶対やりたいと思っておりますので、みなさんもお協力いただければと思います。

このほか皆様から、議題には入ってはおりませんが情報提供などございましたでしょうか。

津田課長

事務局から1点、先程令和6年度の事業の説明を簡単にさせていただきましたが、令和6年度の事業ですので3月議会の承認をいただいてからというのは大前提ですが、その中の合同企業説明会、こちらを新規にやりたいという話をさせていただきました。これは企業様の説明会、募集の時のピーアールをするのに東京だ大阪だ、などの岡山県の所に行っても、出展料は高いし、何十社の内の1ブース2ブースになってしまうので、それだと企業様のピーアールできる場も限られてしまいますし、なかなか埋没してしまうと。ですのでできればオール玉野、玉野の中で玉野の企業さんがピーアールするという形をやりたいと思っております。冒頭から話がありましたが興味があることしか来ないというのが大前提にあるのでどうやったら来てもらえるのかというのは工夫がいるんですけども、基本的には一般休職者といいますか、特にターゲットを絞らずにぜひ玉野の企業を知ってもらおうという観点からもやりたいと思っております。今回初めてということもありますので、開催時期ですね、こういった時期にするのがいいか、場所とか条件もありますが、この時期がいいのではというのがございましたらご意見いただければと思います。

船倉会長

ありがとうございます。企業様の藤原様からお願いいたします。

藤原委員：学年は？

津田課長：高校生対象とかではなく一般企業説明会で、専門学校や大学生の方も。

藤原：就職を考えるタイミングが一番良いんでしょうが、入学してすぐ就職を考える人は

ほぼいないと思うんで卒業が近くなってからそういう気持ちになってくるでしょうから 2 年生後半くらいかなと。

津田課長：時期といたしますのが、来年度中の 4 月から 3 月末の間の例えば夏から秋がいかかなとか。企業様の都合もあるかもしれませんが、7 月だとマリン玉野産業フェアがありますのでそこははずしたほうがいいのかかなと。

藤原委員：それは分からないですよ。ただ年度の最初と最後はやめましょう。

船倉会長：ありがとうございます。磯野委員いかがでしょう。

磯野委員：建設業的にいえば夏の一番暑い時にされるとイメージがわきやすいとは思いますが失敗したことがあるので、やはり本当言うと一番暑い時ははずして欲しいとは思いますが、説明会のタイミングもあると思うのでしかたないかなとは思っています。

船倉会長：ありがとうございます。前田委員お願いします。

前田委員：磯野委員も言われていますが、造船の世界は夏はかなり過酷な環境になりますのでその時期、いずれ経験するのかもしれないんですけど。やはり秋口がいいかと思います。

津田課長：参考にさせていただきます。

船倉会長

その他特にございませんでしょうか。

以上をもちまして全ての議事を終了させていただきます。円滑な進行へのご協力誠にありがとうございました。玉野市様におきましては、委員の皆様のご意見を踏まえ、今後に向けた準備を進めてください。

それでは、会議の進行を玉野市様にお返しします。

津田課長

はい。船倉会長、委員の皆様ありがとうございます。

今回ご承認いただきました基本方針をもとにですね、事務局この 3 団体連携・協力しながら様々な施策を展開し、事業者様の支援、それから本市工業の振興に努めてまいります。皆様方には今後、ご協力をお願いする場面もあろうかと思っておりますので、その際にはよろしくお願いたします。事務局からは以上でございます。それでは以上をもちまして、令和 5 年度第 2 回玉野市工業振興会議を終了とさせていただきます。委員の皆様方におかれましては、円滑な議事の進行へのご協力をありがとうございました。